



《立葵咲く》 65×53cm ダーマトグラフ 2020年



《一寸鬼》 73×52cm ダーマトグラフ 2022年

「黒に魅入られた画家たち」は、黒をテーマにした作家の作品を展示する。黒は、闇、死、悲しみ、そして新たな始まりの象徴である。作家たちは、黒を単なる色としてではなく、感情や思想を表現するための重要な要素として捉えている。この展覧会を通じて、黒の持つ多様な魅力と、作家たちがどのように黒を表現しているのかを学ぶことができる。

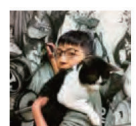
「黒に魅入られた画家たち」は、黒をテーマにした作家の作品を展示する。黒は、闇、死、悲しみ、そして新たな始まりの象徴である。作家たちは、黒を単なる色としてではなく、感情や思想を表現するための重要な要素として捉えている。この展覧会を通じて、黒の持つ多様な魅力と、作家たちがどのように黒を表現しているのかを学ぶことができる。

## 黒に魅入られた画家たち

夜の闇に感じる  
ざわめく世界

# 北川麻衣子

Maiko KITAGAWA



きたがわ・まいこ  
画家。1983年埼玉県生まれ、東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究室博士課程修了。個展を中心に活動し、グループ展多数。国内外のアートフェアに多数出品。  
主な取り扱い画廊 ▶ ギャラリーためなが



《佛蘭遊び》 112×146cm ダーマトグラフ 2022年

## 版画・ペン・鉛筆

「ダーマトグラフ（紙巻鉛筆）」で闇の気配を描く北川。シンブルを木版の世界を追求する遠藤。リトグラフと鉛筆画で究極の黒を目指す見崎。銅版画からは野嶋・大森・西村、それぞれの取り組みを。山田は多種多様な画材で物質と精神をつなげる。

「音」の表現は、水、風、雨、雪、雷、鳥の鳴き声、虫の音、人の声、楽器の音など、さまざまな音の響きを表現しています。また、音の響きを表現するために、さまざまな素材や技法を用いています。例えば、水や油の質感を表現するために、樹脂や顔料を用いたり、音の響きを表現するために、筆やスポンジを用いたりしています。また、音の響きを表現するために、さまざまな色や質感を用いたり、音の響きを表現するために、さまざまな技法を用いたりしています。また、音の響きを表現するために、さまざまな色や質感を用いたり、音の響きを表現するために、さまざまな技法を用いたりしています。

「音」の表現は、水、風、雨、雪、雷、鳥の鳴き声、虫の音、人の声、楽器の音など、さまざまな音の響きを表現しています。また、音の響きを表現するために、さまざまな素材や技法を用いています。例えば、水や油の質感を表現するために、樹脂や顔料を用いたり、音の響きを表現するために、筆やスポンジを用いたりしています。また、音の響きを表現するために、さまざまな色や質感を用いたり、音の響きを表現するために、さまざまな技法を用いたりしています。また、音の響きを表現するために、さまざまな色や質感を用いたり、音の響きを表現するために、さまざまな技法を用いたりしています。

「音」の表現は、水、風、雨、雪、雷、鳥の鳴き声、虫の音、人の声、楽器の音など、さまざまな音の響きを表現しています。また、音の響きを表現するために、さまざまな素材や技法を用いています。例えば、水や油の質感を表現するために、樹脂や顔料を用いたり、音の響きを表現するために、筆やスポンジを用いたりしています。また、音の響きを表現するために、さまざまな色や質感を用いたり、音の響きを表現するために、さまざまな技法を用いたりしています。また、音の響きを表現するために、さまざまな色や質感を用いたり、音の響きを表現するために、さまざまな技法を用いたりしています。



《sound of water》<sup>92,73</sup> 73×32cm 錫粉、顔料、樹脂 2022年



おおさわ・たくや  
 日本画家。1979年埼玉県生まれ。2009年東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程美術専攻日本画研究領域修了。05年創画展、06年春季創画展初入選。08年〈第34回東京春季創画展〉春季展賞（10年も）。個展、グループ展多数。国内外のアートフェアに多数出品。現在、日本文化財漆協会会員。  
**主な取り扱い画廊** ▶ ギャラリーためなが

# 大沢拓也

漆と日本画の研究で  
 目指す「音」の表現

Takuya OSAWA

## ジョルジュ・ルオー展

9月17日～10月10日 ●銀座・ギャラリーためなが ☎03(3573)5368

20世紀フランスを代表する巨匠ジョルジュ・ルオー。黒の輪郭線と鮮やかな色彩を特徴に、造化師などの人物画、キリスト教をテーマとした風景画などで知られる。その70年に及んだ画業を優品30余点で紹介。人間の本性に迫るルオー芸術の核心を見る。

ジョルジュ・ルオー 花瓶の花 油彩



## 村居正之作品展～歴史を刻む 日本画の輝き～

8月24日～30日 ●飯倉うめだ本店 9階 飯倉うめだギャラリー ☎06(6361)1381

令和元年度第76回日本芸術院において、《月照》で恩賜賞・日本芸術院賞を受賞した村居正之。日本芸術院会員就任を記念し、ギリシャに関わる作品約50点が一堂に会す。幅4m50cmに及ぶ大作は、重厚な岩絵具の質感と卓越した空刷毛の技により鑑賞者を圧倒させる臨場感に満ちている。

村居正之 月照 日本画



## 山田嘉彦展 一清澄なる点描—

9月21日～26日 ●日本橋高島屋S.C. 本館 6階美術画廊 ☎03(3211)4111

1940年東京都生まれ。東京藝術大学卒業。後期印象派のスーラが追求した点描技法を用いた作品は、画面の奥行きや広がりを感じるとともに清新とした空気感に満たされている。画業50年を記念し、日本の風景を中心とした大作から小品までを展覧。



山田嘉彦 安乗崎 油彩

## PRINTS—Hockney, Blake, Hamilton

9月13日～10月5日 ●日本橋・西村画廊 ☎03(5203)2800

同画廊が開廊当初より継続開催するグループ展。世界的巨匠、デイヴィッド・ホックニーの版画シリーズ「Moving Focus」から代表的イメージ《An Image of Celia, from the 'Moving Focus' Series》を中心に、ピーター・ブレイク、リチャード・ハミルトンの代表的版画作品を加えて。

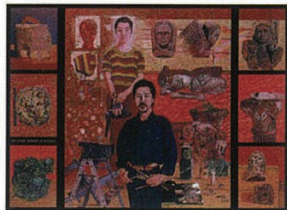


リチャード・ハミルトン  
A mirrorral return 1998  
アイリスデジタルプリント、紙  
© Richard HAMILTON

## 浜村博司 ナガサキ考 遺作展

9月5日～14日 ●表参道・始弘画廊 ☎03(3400)0875

二紀会を中心に活動、昨年惜しくも他界した浜村博司の遺作展。画家の郷里でありライフワークともなった「ナガサキ考」シリーズの集大成。油彩を中心に最近作まで約40点を展示予定。



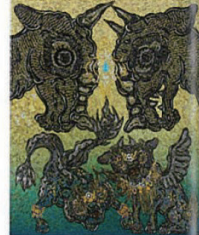
浜村博司 ナガサキを描く人 油彩 ※参考作品

## 小松美羽展—霊性とワンダラー

9月1日～19日 ●飯倉うめだ本店 9階 飯倉うめだギャラリー / 飯倉うめだホール ☎06(6361)1381

1984年長野県生まれ。豊かな自然の中で育ったことで培った独自の死生観を持ち、狛犬や神獣などを祈りを込めて描く。観る者の魂を揺り動かし、閉塞した現代社会を生き抜く力を与えるその作品群を一堂に。一般＝1000円ほか。

小松美羽 清らかな日々と心願  
ミクストメディア



## 伊藤彰規展

9月1日～9日 ●銀座・ギャラリーゴトウ ☎03(6410)8881

1955年北海道生まれ。78年多摩美術大学油画科卒業。自身が住む北海道北見の自然からインスパイアされた、ブルーを基調とした画風で知られる。様々な抽象化されたみずみずしい作品の数々が並ぶ。

伊藤彰規 オホーツク日和  
紙、アクリルガッシュ



## 河井敏孝 作陶展

9月1日～7日 ●京王百貨店新宿店 6階 京王ギャラリー ☎03(5321)5300

民藝運動を牽引した陶芸家・河井寛次郎の精神を学び、個性的な作品を生み出す河井敏孝。「河井寛次郎記念館」の公開にも尽力。今展では、扁壺をはじめ、陶板、食器など80余点を展覧。

河井敏孝 黄釉彩泥文 扁壺

